文部科学省『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン』採択事業

新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン

市民公開講座「がん医療×　新たな日常のデザイン」実施報告書

2021. 3/6 土

市民公開講座「がん医療×新たな日常のデザイン」
実施報告書　目次

タイトル	ページ
1．ご挨拶	1
2．開催概要	2
3．講演内容	4
講演１　がんを知り、がんと向き合いませんか？	4
講演２　デザインに何ができるか？	5
4．アンケート結果	8
5．コーディネーター教員　所感	11

1. ご挨拶

文部科学省事業「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」では、九州の10大学（九州・福岡・久留米・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・琉球）が連携し、日本のがん医療で注目されている「がんゲノム医療」、「希少がん」、「小児・AYA 世代がん」、「ライフステージに応じたがん対策」などの新たなニーズに対応する専門医療人を育成するため、大学院教育を中心として活動を行っています。

今回、この九州がんプロ養成プランを市民の皆様にご理解いただくと共に、がんに関する情報の発信を目的に、北部九州エリアの4大学（九州・福岡・久留米・大分）が市民公開講座「がん医療×新たな日常のデザイン」を開催いたしました。

日本人のおよそ半数ががんに罹る可能性があると考えられており、身近な疾患と言えます。そこで本講座では、まずがんという病気がどのようなものか、がんになった場合にどのような治療を行ってゆくかという最新の情報を紹介しました。さらに、患者さんやご家族が日常の生活をより良く保ちながら治療を行うには、医療機関だけの力ではなく、幅広い分野の専門家が協力してゆくことの大切さもお伝えしたいと考え、九州大学大学院芸術工学研究院デザインストラテジー部門の平井康之教授、株式会社さわやか倶楽部の小林さおり先生にお願いし、デザインの視点からみた医療についてお話頂きました。様々な専門分野が協調して、患者さんとご家族の支えになることを強く感じることができたと思います。

九州がんプロ養成プランでは、2018 年 12 月にも大分県立美術館（大分市）を会場とした市民公開講座「がん医療×アートな暮らし」を開催しました。ここではがん医療における芸術の役割を、美術館という場で考えることができました。本年度は福岡市立美術館の会場を準備しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大のため会場での公開講座の実施が困難となりました。そのため九州大学病院国際医療部アジア遠隔医療開発センター（TEMDEC）の協力により、ライブ配信（YouTube）形式で開催いたしました。視聴の準備などで市民の皆様には御手数をお掛けいたしましたが、お陰様で多くの方にご参加いただきましたことを感謝申し上げます。

私ども九州がんプロ養成プランは、今後もがん医療の専門家の育成に力を尽くして参ります。またこれと共に、「がんと私たちの暮らし」についても、最新の情報と新しい視点を市民の皆様へお伝えして参りたいと思います。

今後ともご理解とご支援をいただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

北部エリア　コーディネーター教員

九州大学 連携社会医学分野 教授	馬場　英司
福岡大学 腫瘍・血液・感染症内科学 教授	髙松　泰
久留米大学 医学部看護学科 教授	原　　頼子
大分大学 呼吸器・乳腺外科学講座 教授	杉尾　賢二

2. 開催概要

1. 催事名称

新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン　市民公開講座「がん医療×新たな日常のデザイン」

2. 主催

新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン

3. 協力

九州大学病院国際医療部アジア遠隔医療開発センター（TEMDEC）
QR プログラム（Qdai-jump Research Program）
「医療とデザインを融合した未来社会のための教育プログラムの開発」
株式会社さわやか倶楽部

4. 日時

令和3（2021）年3月6日（土）14：00～16：00

5. 開催形式

YouTube によるライブ配信

6. プログラム

1. 開会挨拶　九州大学大学院医学研究院　連携社会医学分野　教授　馬場　英司

2. 講演Ⅰ「がんを知り、がんと向き合いませんか？」
（座長）大分大学　呼吸器・乳腺外科学講座　教授　杉尾　賢二
（講師）福岡大学医学部　腫瘍・血液・感染症内科学講座　教授　髙松　泰

3. 講演Ⅱ「デザインに何ができるか？」
（座長）久留米大学医学部看護学科　教授　原　頼子
（講師）九州大学大学院芸術工学研究院　デザインストラテジー部門　教授　平井　康之
株式会社すこやか倶楽部　ケアマネージャー　小林　さおり

4. 閉会挨拶　福岡大学医学部　腫瘍・血液・感染症内科学講座　教授　髙松　泰

7. 視聴者数

59 名

文部科学省『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン』採択事業

新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン

がん医療 × 新たな日常のデザイン

2021年 3月6日（土）

参加無料　YouTubeによるライブ配信

14:00～16:00

【申込方法】※当日12:00締切

①以下のURLよりお申し込み下さい。
（https://forms.gle/LsoVKBajwfhmqLaH9）

②右のQRコードよりお申し込み下さい。

- 開会挨拶
  馬場 英司（九州大学大学院医学研究院 社会環境医学講座 連携社会医学分野　教授）
- 講演１「がんを知り、がんと向き合いませんか？」
  座長：杉尾 賢二（大分大学医学部 呼吸器・乳腺外科学講座　教授）
  講師：髙松 泰　（福岡大学医学部 腫瘍・血液・感染症内科学講座　教授）

＜休憩＞

- 講演２「デザインに何ができるか？」
  座長：原 頼子　（久留米大学医学部 看護学科　教授）
  講師：平井 康之　（九州大学大学院芸術工学研究院 デザインストラテジー部門　教授）
  小林 さおり（株式会社さわやか倶楽部　ケアマネージャー）
- 閉会挨拶
  髙松 泰（福岡大学医学部　腫瘍・血液・感染症内科学講座　教授）

＜問合せ先＞九州がんプロ事務局（k-ganpro@c-oncology.med.kyushu-u.ac.jp）
ホームページ：http://www.k-ganpro.com/

主催：新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン
協力：株式会社さわやか倶楽部
九州大学病院 国際医療部 アジア遠隔医療開発センター（TEMDEC）
QRプログラム（Qdai-jump Research Program）「医療とデザインを融合した未来社会のための教育プログラムの開発」

3．講演内容

講演１「がんを知り、がんと向き合いませんか？」

福岡大学医学部　腫瘍・血液・感染症内科学講座　教授　髙松　泰

1．がんとは、どのような病気なのか？がんになると、何故困るのか？

体の細胞には寿命があり、老化したり傷ついた細胞は死滅し、必要に応じて新しい細胞を作っています。「がん」は、遺伝子に異常が起こり、正常な体による制御を逸脱し、細胞が自分勝手に増えていく病気です。がん細胞は正常な体の細胞に取って代わって増えるため、がんが大きくなると正常な体（臓器）の機能が損なわれます。その結果、体調が悪くなり、重症化すると命に関わります。

2．がんになったら、どのような治療をするのか？

がんの治療は、病変が限られた場所にある場合は外科手術、放射線療法が有効です。病変があちこちに広がっている場合は薬物療法を行います。薬物療法には、抗がん薬に加えて、がん細胞がもつ特徴に作用する分子標的薬や、免疫療法薬（免疫チェックポイント阻害薬など）が開発されています。がんが発生した臓器ではなく、1 人 1 人のがんの遺伝子異常を調べ、その遺伝子異常に対して効果の高い治療薬を選択して行うがんゲノム医療が行われるようになっています。これらの治療に加えてがんの治療で重要なのは、症状を緩和する治療（緩和医療）です。がんおよびその治療に伴う痛みや体のきつさなど体の苦痛に加えて、がんと診断された後の気分の落ち込みや不安、仕事や家庭の問題など精神的・社会的な苦痛を和らげることが大切です。がんと診断された時から医師、看護師、薬剤師、リハビリ技師、栄養士、ソーシャルワーカーなど多職種が協力して緩和医療を行います。がん診療連携拠点病院には、がん相談支援センターが設置されています。患者さん、ご家族、その病院に通院していない方、どなたでも無料で利用できますので、気軽に利用してください。

3．がんで困らないためには、どうすればいいか？

がんの生存率は病期により異なり、早期に発見することが重要です。福岡県のがん診療連携拠点病院のデータでは、がん検診を受けて診断された人は、症状が現れて病院で検査を受けた人に比べて、より早期にがんを見つけることができ、その結果生存率も高くなります。厚生労働省は、胃がん、子宮頸がん、肺がん、乳がん、大腸がんの検診を推奨しています。がん検診を受けて、早期発見、早期治療に努めましょう。がん撲滅への究極の対策は、がんの発生を予防することです。男性のがんの 53％（喫煙 30％、感染 23％、飲酒 9％）、女性のがんの 28％（感染 18％、喫煙 6％、飲酒 3％）は、感染や生活習慣が原因で起こります。禁煙、節酒、食生活の見直し、適度な運動、適正体重を維持に気を付けて生活することで、がんになるリスクが低くなります。生活習慣に気を付けて、がんの発生を予防しましょう。

講演２「デザインに何ができるか？」

九州大学大学院芸術工学研究院　デザインストラテジー部門　教授　平井　康之

1. インクルーシブデザインとは

デザインというと、車やファッションのデザインを思い浮かべるかもしれませんが、デザインは、モノのデザインからコトのデザインに広がっています。私の取り組んでいるインクルーシブデザインでは、そのようなかたちのあるモノのデザインから、サービスのようなコトのデザイン、さらに最近では行政のデザインにまで広がっています。例えば福岡県福津市と子育てサービスマップをデザインしています。

なぜそうなるかというと、インクルーシブデザインは、多様な人々を包含し、かつ一般的に普及するデザインを目指す考え方だからです。ユニバーサルデザインと近い考え方ですが、「障がい」ではなく、6つの社会的排除の解決を目指しています。その6つとは、インクルーシブデザイン研究家のジュリア・カセムによると、1）下肢障がい等の身体的排除、2）視覚障がい等の感覚的排除、3）外国人や親子や学習障がい等の知覚的排除、4）高齢者等のデジタル情報排除、5）差別等の感情的排除、6）貧困等の経済的排除です。

インクルーシブデザインを最初に提唱したロジャー・コールマン名誉教授は、若い頃にデザイナーとして車椅子を使っている友人からキッチンのデザインを依頼されました。彼は最初使いやすいデザインを考えましたが、その友人から「他人が羨むデザインをしてほしい」と言われたそうです。インクルーシブデザインの目指すのは、不便さの解決だけではなく、そのような熱い思いの実現にあります。つまり SOS を WOW に変えるデザインです。

2. 医療×デザイン

インクルーシブデザインを用いた医療関連のデザインをご紹介します。「こども×くすり×デザイン」プロジェクトでは、薬剤師の方々と実行委員会を立ち上げて、こどもの服薬を楽にするデザインの提案を行ってきました。こどもたちが「こんなモノがあったらいいな」と考えたアイデアを元に具体的なデザインを作り、グッドデザイン賞やキッズデザイン賞をいただきました。このプロジェクトは、こどもの気持ちをかたちにすることでこれからのデザインの方向性を具体的に示しました。同プロジェクトで次に取り組んだお薬手帳「けんこうキッズ」は、実際に販売され、多くの方々に使っていただきました。

3. 介護×デザイン

私は直接がんに対処したデザインは行っていませんが、応用可能な例として高齢者向け介護施設での生活の質を良くするためにデザインしたライフマップをご紹介します。このあとお話いただく小林さんの所属する株式会社さわやか倶楽部との共同デザインです。介護現場の調査から、今使われているケアプランは、肉体の残存能力の維持が目的であることが分かりました。そして入居者の方々との会話から、本当に望む生活を実現するには、ケアプランではなく人生（ライフ）の熱い思いを見つけるライフマップが必要ということが分かりました。

ライフマップは、ケアマネジャーと入居者が話し合うためのツールで、これまで人生を短時間で可視化し、これからの生き甲斐を実現する計画を作るお手伝いをします。

平井　康之（ひらい・やすゆき）
九州大学大学院 芸術工学研究院 デザインストラテジー部門　教授

日米の民間企業にてデザイナーとしてオフィスデザインや商品開発に携わる。ドイツ Red Dot 賞、グッドデザイン賞、キッズデザイン賞など受賞多数。日本におけるインクルーシブデザインの第一人者。
2003 年よりソーシャルイノベーションのアプローチであるインクルーシブデザインをベースに活動を展開、英国王立芸術大学院（ロイヤル・カレッジ・オブ・アート）ヘレンハムリン・センター・フォー・デザインとのコラボレーションにより研究に取り組んでいる。さらにアメリカのデザインコンサルタント会社 IDEO での経験からデザイン思考にも取り組んでいる。その他、オフィス空間や教育・研究空間をはじめ、住居や業務・文化・商業施設など多様なインテリア空間の諸特性（生活行動特性、環境特性など）と家具や建築部材などインテリアエレメントの相互関係についての調査・研究や、インテリアプロダクトの調査、開発および検証を行っている。

介護施設で提供されているサービスは、本人様の生活の意向を聞き取り、体の機能などを調査し、その方に合ったケアプランを作成して提供されます。
その生活の意向を聞き取る際、対面でこれからの生き方について面談を行いますが、認知症や持病をお持ちの方、車椅子で生活されている方、80歳や90歳過ぎている方などに対して、未来に向けた思いを話して頂くことや気持ちを引き出すことは非常に難しく、介護の現場でも緩和ケアにも求められているような「その方らしく過ごせること」に大切である聞き取りが十分行えていない現状がありました。

十分な思いを引き出せないことで、私達が必要と思い、与えようとする支援では残りの時間を満足して生きて頂くことは難しいというジレンマがあります。
平井教授と開発したライフマップは、「残りの人生をどう生きるか」ということを高齢者の方と一緒に考え気持ちをデザインしていくことで、その方の表面に現れていないこと、思いや本心を聞き取り、生きる力になるヒントを見つけられ、多くの高齢者の生活が変わりました。
介護の現場での問題が、がん患者様にも通じることがあるのではと思い、高齢者の視点でお話しさせて頂きました。

高齢者の方は認知症などの問題で本人様ががんの告知を受けない方が多くいらっしゃいますので、余命宣告を受けた後の心のケアという対応とは違いがあるかと思いますが、残りの時間をどのように生きていきたいのかを知ることと、私達がどのようにサポートさせて差し上げれば少しでも満足した時間を提供できるのかということは医療でも似たような状況があるのではないかと思います。
事例に挙げさせて頂いたお2人は、余命が短いと分かっていた方でした。今までのサービス提供であれば安心、安全を優先に今の状態でできることを提供するという考え方でした。
しかしライフマップで表面に現れていない思いや本心を知ることができると、これからの生活に提供できることの幅が広がります。

病気であるとか高齢であるということが故に、生きる力になる思いを私達が奪うことがないよう「それは〇〇だからできない」ではなく「どうやったらできるのか」を考えることが必要です。どうやったらできるのかを実践したことで、事例のお一人は他界された奥様と過ごしたような庭を作り、奥様を感じられる場所を施設で作ることができました。もう一人の方は施設内でスナックのママをされ、希望であった「もういちど輝きたい」ことを1年半も続けることができました。お2人ともの残されたご家族様にとっても、悲しむことだけでなく、懐かしめることを残すことができれば、心の平穏になるのではないかと思います。

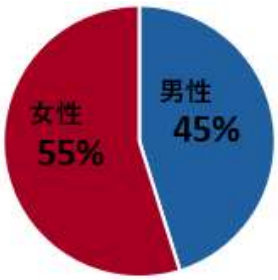
残された時間はお一人ひとり違うけれど、その方の本心を知ることができれば、その人らしく終焉を迎えることができるお手伝いができるのではないかと思っています。
デザインを取り入れることで「心を動かすこと」の術がある事をお伝えさせて頂きました。

4. 参加者 WEB アンケート結果

今回、事前に参加お申し込みいただきました 101 名の方へ、市民公開講座終了後に WEB アンケート（Google フォーム）を実施し、31 名よりご回答いただきました。
具体的な感想やご意見については、一部抜粋して掲載しております。

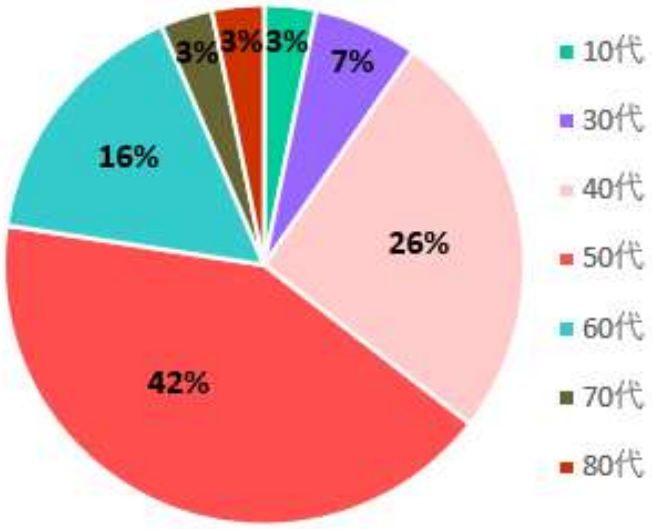
【設問1】性別

	合計
男性	14
女性	17
計	31



【設問2】年齢

	合計
10 代	1
30 代	2
40 代	8
50 代	13
60 代	5
70 代	1
80 代	1
計	31



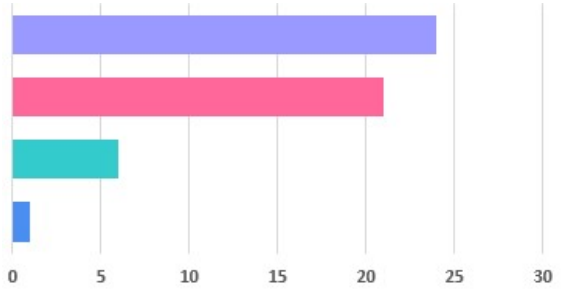
【設問3】公開講座を、何によってお知りになりましたか？（複数回答可）

	合計
チラシ・ポスター	4
インターネット	9
病院からの紹介	5
知人からの紹介	7
その他	6
計	31

[その他]会社からの紹介、がんプロからの案内メール

【設問4】ご参加の理由をお聞かせください。（複数回答可）

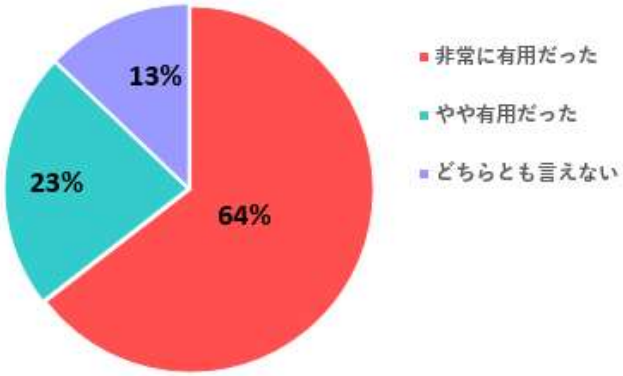
	合計
講演1に興味があったから	24
講演2に興味があったから	21
病院・知人等から紹介されたから	6
その他	1
計	52



[その他]先生が友人の兄弟だから

【設問5】講演1「がんを知り、がんと向き合いませんか」についてのご感想

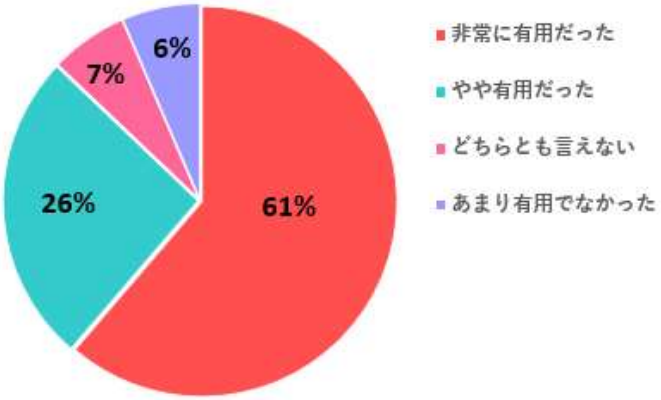
	合計
非常に有用だった	20
やや有用だった	7
どちらとも言えない	4
計	31



[具体的な感想]
・分かりやすい講演でした。
・癌で余命宣告されておられる方が、それ以降も楽しく自分らしく生きていくことはとても大切であると感じました。また高齢になったとしても、サクセスフル・エイジングという視点が必要だと感じました。
・がん患者なので既に知っている事の方が多かった。がん治療の「最大公約数」の話だとどうしても焦点がぼやけるのは仕方がないことだとは思いますが。
・まだいろんな課題を感じた。
・もっと詳細な内容も知りたかった。
・今までのがんに対するイメージが今回の講座で改めることができました。
・早期からの緩和ケアの有用性などとても分かりやすく勉強になりました。
・がんの名前だけで怖いになっていたが、詳しく知ることで色々と考えることができるようになった。

【設問6】講演2「デザインに何ができるか？」についてのご感想

	合計
非常に有用だった	19
やや有用だった	8
どちらとも言えない	2
あまり有用でなかった	2
計	31



[具体的な感想]
・とても興味が深まった。
・ライフマップを多くの介護施設で利用してもらうと高齢者介護の考え方が変わってくると思う。
・医療との連携に有意義。
・デザインの医療への関わりの大切さを感じた。
・高齢者施設の取り組み例を通して、ACP にデザインを活用する有用性を感じました。
・医療介護にビジュアルを取り入れる意義効果を知り大変参考になりました。
・ライフマップが非常に参考になった。
・通院しながら日常生活を送っていると「こうだったらもっと過ごしやすいのに」と思う事がたくさんあり、そういった事をすくいあげるデザインの話が聞きたかったです。それから「ライフデザイン」も大切かもしれませんが、「死ぬまでにしたいこと探し」みたいで現在進行形で治療中の身としては、目の前の不安と副作用の大変さで手一杯なので、とてもじゃありませんが「生き方」とかそういったある意味「高尚な事」なんて考えられないのです。
・デザインと医療、介護の取り組み事例をはじめて伺い、新たな視点で面白いなと感じたのと、お一人お一人のニーズに寄り添えるとても重要な取り組みだと感じました。
・余命にやりたい事をデザインする事ができると知りほっとしました。
・医療で辛いと感じていることがデザインで笑顔にできることに感動しました。誰でもできるという講演を聞いて、自分自身も日頃からふとした笑顔になれる瞬間を敏感にしたいと思いました。
・もの＝デザインのイメージを変えることができた。

【設問7】「医療」と「デザイン」を結び付けた今回の企画についてのご意見やご感想

・あまり表にでてこない内容なので、どんどん紹介してほしい。
・よい企画だった。
・大変興味深い企画と思いましたが、デザインの内容が力不足に感じました。
・デザインと医療のコラボの有用性や新たな視点を感じました。
・ホスピタリティーにとってデザイン（施設、人、サービス）は重要だと思う。
・未来の医療に必要なことだと感じた。
・普段目にしない研究や提案を取り上げることは素晴らしいです。とくに、さわやか倶楽部のライフマップの取り組みはもっと介護業界に知れ渡ったらいいと思います。
・ライフマップを利用して、自分の死について死が近い人が笑顔で話せることが衝撃で感銘を受けました。ぜひ、実際に活用してみたいです。
・面白い組み合わせでした。

【設問8】今後、公開講座で取り上げて欲しいテーマや、事業に関するご意見

・常識が覆されるようなテーマでの講座が視聴できればと思います。
・医療の専門化と統合の課題。
・デザインの医療への関りを補助器具、部屋、空間まで広げた視点の展開。
・緩和ケアについて取り上げて頂きたいです。
・医療や生命科学関係のトピック希望。
・がんサバイバー。
・「YouTube による配信」を受信するのが初めてで、いろいろ試みましたが最後まで受信できず、今回は残念ながら参加できませんでした。
・今回の講演で、医療とデザインなどこれまでになかった視点がとても勉強になりました。ほかにも医療と他分野のコラボレーションについて知りたいです。
・様々なものとデザインの組み合わせ。

5. コーディネーター教員 所感

原 頼子（久留米大学コーディネーター）

新ニーズに対応する九州がんプロ養成プランでは、2020 年度市民公開講座「がん医療×新たな日常のデザイン」を 3 月 6 日（土）に開催しました。

九州大学の馬場英司先生の開催趣旨のお話に続き、福岡大学医学部 腫瘍・血液・感染症内科学教授 高松 康先生から「がんを知り、がんと向き合いませんか？」という、がんの現状、治療方法、最新のがん医療までとてもわかりやすいご講演を頂きました。

そして次のセッションでは、医療と異分野の融合という観点から、九州大学大学院 芸術工学研究院 デザインストラテジー部門 教授 平井康之先生、株式会社さわやか倶楽部 小林さおり先生をゲストに迎え、その人らしく生きるための効果的なアプローチとしてのデザイン、施設での高齢者への取り組みについてご講演頂きました。

本公開講座は、最初は福岡市美術館で開催できないかと検討していましたが、新型コロナウィルス感染症防止対策のために Web 開催となり、参加される方との一体感をどのようにしたら感じられるのだろうかと考えました。しかし、そんな心配は必要ありませんでした。どの先生方のお話も心に響く内容で、生きる目的を発見するお手伝いをする、そのための仕組みを作るというデザインの持つ力を実感するものでした。「印象的な絵やものを視ること、イメージしながら考えること」というお話や画面から参加者にもメッセージは伝わったのではないかと思います。

このような時期だからこそ、忘れてはならない心のつながりを作るための具体的なお話であり、がんと共に生きる方と共に居るために、私たちはどうしたらいいのか道標を示していただけるものでした。

今回の講座に関わることで、このような素晴らしい体験をさせていただいたことに本当に感謝いたします。

杉尾 賢二（大分大学コーディネーター）

2021 年 3 月 6 日に市民公開講座「がん医療×新たな日常のデザイン」が YouTube によるライブ配信で開催されました。前半の講演は、「がんを知り、がんと向き合いませんか？」のタイトルで、福岡大学医学部の高松泰先生が話され、私がその司会を務めました。がんとはどのような病気なのか、最近のがん治療の進歩を一般の方でも理解できるように話されました。また、以前と異なり支持療法の進歩でがんの薬物治療を受けやすくなったこともあり、素直にがんに向き合うことができるようになったことが理解できたのではないかと思いました。

後半は、「デザインに何ができるか？」とのテーマで、九州大学大学院芸術工学研究院の平井康之先生とすこやか倶楽部の小林さおり氏が講演されました。いったい何ががん医療と関係するのであろうか、と思いながら聞いておりましたが、種々のデザインの発想や工夫によって、医療の場をこれまで変化させることができるのか、心のケアに結び付くのかを考えさせられた大変興味深いお話でした。

聴講された市民の方々は、思いがけず心にしみる話を聞けたのではないかと思っているところです。このような企画をされた関係者の方々に深謝申し上げます。

文部科学省『多様な新ニーズに対応する「がんプロ専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン』採択事業
新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン　市民公開講座「がん医療×新たな日常のデザイン」実施報告書
編集・発行　令和 3（2021）年4月
九州大学がんプロ、福岡大学がんプロ、久留米大学がんプロ、大分大学がんプロ
http://www.k-ganpro.com/

文部科学省『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン』
採択事業　新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン

市民公開講座「がん医療×新たな日常のデザイン」実施報告書

発行 令和３（２０２１）年４月
編集・発行　九州大学大学院医学研究院　九州連携臨床腫瘍学講座、九州がんプロ事務局
ijsganpro@jimu.kyushu-u.ac.jp
http://www.k-ganpro.com/